

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290300359		
法人名	医療法人メディカルフロンティア		
事業所名	グループホームほおずき		
所在地	031-0023 八戸市是川一丁目11番地1		
自己評価作成日	令和2年10月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和2年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設周辺の環境に恵まれており、施設内からは四季折々の景観や花々を眺め、見渡す事のできる公園が隣接しており、日常的において自然を身近に感じられる事ができる。また、公園散歩時には気軽に近くの住民の方や、子供達と挨拶を交わしている。少しずつ地域の一人として認知されており、定着してきている。理念である「誠実に、謙虚に」を常に意識しつつ職員間の連携を保ちながら、利用者様の心情をくみ取り、出来る限りコミュニケーションをとったり、寄り添う姿勢をもって本人本位のケアに繋がるよう心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

住宅地の中にあり、隣には地域住民が頻繁に利用する公園がある。この立地条件を活用し、日常的に戸外へ散歩に出かけ、ゲートボールを楽しむ住民や遊んでいる子供たちとも顔見知りになり、声を掛け合うなど交流の機会を得ている。また、地域の保育園や幼稚園、町内会等と盛んに交流したり、ボランティアを受け入れるなど、地域に溶け込み利用者が地域と繋がりがりながら安心して生活出来る環境づくりがなされている。平成29年に経営する法人が変わった際、法人理念も変わったが、その新しい理念をグループホームなりに理解し、グループホームの理念として落とし込み、職員が共有し常に意識することでケアの質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「誠実に、謙虚に」の法人理念を玄関・スタッフルームに掲げ、常に意識しながら職員、管理者は日々、基本を振り返りながら共有し、取り組んでいる。	理念は、玄関やスタッフルームなど職員の目につくところに掲示するとともに、ケア会議や内部研修の際には、確認しあい共有するようにしている。また、課題解決に向けては、理念に立ち返り検討することで実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に町内会、保育園、幼稚園等と連絡をとりながら、交流を続けている。今年は新型コロナウイルスの影響で自粛しているが、散歩時は挨拶を交わしたりして日常的に交流している。	町内会、保育園、幼稚園などの行事に双方向で参加しあうなど、盛んに交流している。また、町内のあおぞら市にて月1回、管理者が介護などに関する相談に応じるコーナーの担当をするなど地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内で運営しているあおぞら市のよろず相談に、管理者は定期的に参加しており、地域の方々に事業所の案内、説明をしながら認知症についての発信をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では施設の取り組みや情報交換をしながら、利用者様のサービス向上に活かしている。今年度は書面にて開催しており、その内容は全職員に伝達している。	地区の連合会長、民生委員、薬局の薬剤師、訪問看護師、高齢者支援センター職員が参加し2ヶ月に1回開催している。会議では、運営状況等報告をするほか、地域の情報も多く得られる。会議で得られた情報は、職員間で共有しサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当の方には普段からメールやFAXで情報交換し、協力頂いている。また、疑問点の確認、報告時には市の窓口を訪問してより良い関係構築に努めている。	市役所の担当者とは日常的にメールやFAXで相互に連絡を取り、情報交換や相談にのってもらうなど協力関係の構築に努めている。最近では、コロナ禍の管理者研修について相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に内部研修、及びケア会議で話し合い、帰宅願望の方の対応等について意見交換している。玄関の施錠は、しておらず「身体拘束ゼロ」のケアに取り組んでいる。	年1回内部研修で学習の機会を設けている。3ヶ月ごとに検討会を行っている他、法人の他事業所の職員が集まり検討会をする機会も1～3か月ごとにある。そうして職員の意識を高めることで、現在身体拘束をしないケアが実現されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に内部研修を実施しており、職員全員が周知している。利用者様の尊厳を守りながら安心して頂けるよう虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	委員会の内部研修、外部研修を通じて学習している。また、成年後見制度を利用している方もいるので、専門的分野を活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改訂前には利用者、家族様に運営規定、重要事項説明書に基づき十分に説明し、理解、納得、同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは普段の会話等から、思いを聞き取り家族様に伝え相談している。また、来所時職員へお話して下さる家族様もあり、出された意見は職員で話し合い業務に反映させている。1F玄関入口に「ご意見箱」を設置している。	玄関に意見箱を設置するほか、利用者からは日常生活の中で、家族からは面会の際や電話をかける機会に聞き取りしている。頂いた意見は、必要に応じて職員間で共有、検討し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のケア会議時に職員、係りの意見や提案を事前に提出してもらい話し合いをしている。改善時には実践、反映させている。急ぐ時は随時にて対応している。	ケア会議の前に意見があれば、廊下に設置した封筒に職員がメモを入れられるようにしている。また日常の中で管理者は職員の意見を聞くよう心掛けている。年2回個別の面談も行っている。大きな買い物や要望などは、管理者から法人の本部にメールで伝え反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を通し、職員個々の勤務状況、希望を把握し報告している。職員の昼食無料、飲料水のサーバー設置等、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修参加の促進や、それに伴う勤務調整についても理解があり、働きながらのトレーニングの実績が継続されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修参加の機会を作って頂いている。同業者との交流は図られており、サービスの質の向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス前の面談、情報収集を行い本人様の困り事、要望等を伺い把握、安心できる関係作りに努め、馴染みの環境に配慮するよう支援する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に時間をとり家族様の要望、不安事をきいて提案、対応できるようコミュニケーションを積極的に図るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族様のニーズを探り、職員間で話し合い本人様に合ったサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、新聞たたみ、茶碗拭きなど各々、手伝って頂き、協力し合いながら共同者の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診等、家族様と連絡をとり合い、本人様が不安にならないよう付き添う等、協力して頂いており、何かあった時には随時連絡して相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の思いを受けとめ、馴染みの友人や知人との関係が途切れないよう配慮、支援している。	コロナ流行前には、古くからの知人が面会に来る利用者がおられる。また、自分が住んでいたところへ行きたいと要望する利用者をドライブで連れていったり、馴染みの美容院の利用を望む方には、家族の協力を得て、行き続けられるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や日常の過ごし方を観察、把握し、職員が間に入り席替え等して、利用者同士の関わり合いを円滑にして、孤立しないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時は今まで育んできた関係性に感謝しながら、関係が途切れぬよう「何かあったら連絡ください。」と必ず声をかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や関わりから、希望や意向の把握に努めている。本人本位と個別に支援し、時には家族様にも協力頂いている。	センター方式のアセスメントツールで利用者の言葉から思いや意向、家族の思いや意向の把握に努めている。自ら訴えることの困難な利用者であっても表情などから汲み取り、家族からも聞き取り、最終的に職員が本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族様との会話、または前担当者からの情報を踏まえながら、今までの生活歴、環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で、一人ひとりの行動パターンからの一日の過ごし方、体調や動作時の状態変化等、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回、または随時ケアプランミーティングを実施している。事前に本人、家族様の希望を伺い、それを基点として訪問看護師を交えて話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	利用者や家族の意向を取り入れ、職員間にて十分協議し、介護計画は定期的並びに利用者の心身の状況の変化に応じて随時見直し、現状に即した内容のものを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人様の日々の様子を個別記録に記録し、変化があった際には記録し随時または、申し送りで伝え共有しながら実践や介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々発生するニーズに対して外出や、通院等本人、家族様の状況に合わせた柔軟な対応、支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の催しもの等、地域の方、家族の方に協力頂き活用、参加する機会が恒常的にあり、楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回、協力医療機関の主治医の往診がある。また本人、家族様の希望であるかかりつけ医の受診継続も行われている。年に1度の健康診断も実施している。	入居時にかかりつけ医を協力医に変更するか通院中のかかりつけ医にするか選択してもらっている。受診は職員が対応し、他科受診については家族にも対応をお願いする。歯科の往診も入り適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、訪問看護師来居時、利用者様の報告事項を伝え相談、助言頂いている。24時間対応しており随時連絡相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設からの情報提供所を持参し、病院関係者との共有に努め、退院時も家族様、医師、看護師、医療連携室との情報交換も含めて対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期の方針を早い段階から本人、家族様に説明し、同意を得て何度も話し合いながらその都度意向を確認、医師、訪問看護師と連携とりながら支援している。	重度化した場合について、入居時、また心身の状況に応じて適宜、「重度化した場合における対応に係る指針」を活用し、本人、家族へ説明し意思確認を行っている。実際に重度化した場合には、適宜、かかりつけ医、訪問看護師も含め、何度も話し合う機会を持ち、看取りケアに向けて共有した支援ができるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には対応マニュアルに沿って対応している。施設内にはAEDが常備されており施設内外での研修参加で、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルの整備、職員の周知及び内部研修をしながら、町内会の方に協力頂きながら年に2回避難訓練を実施している。	防災計画、防災マニュアルを整備し、年2回消防、地域住民の協力のもと避難訓練を実施している。職員は毎月、青森県防災ハンドブックから問題を出し解答することで、火災以外の様々な災害時の対応についても考え学ぶ機会を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本である人格の尊重、プライバシーを考 えながら一人ひとりを支援している。また、 普段の内部研修で学ぶことにより、尊厳を 再確認し配慮しながらの言葉かけや対応を している。	尊厳については年1回内部研修で学習の機 会を得ている。入浴、排泄時は可能な範囲で 同性介護を行うなど、日常的に利用者の人 格を尊重しプライバシーに配慮した対応を心 掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	自己決定を促すために二択で質問したり、 思いを伝えて頂く雰囲気作りを心がけてい る。本人様の言動で思いや希望を把握し、 察知できるようコミュニケーションをより多く とるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	希望があれば入浴日や時間の変更、食事 の場所の変更等、その方のペースや気分を 尊重、大切にしながら無理強いすることなく 支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	定期的に利用者様の希望をききながら、理 容を利用している。また、季節にあった身だ しなみを提案、希望を伺いながらおしゃれで きるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	利用者様から希望がある時は献立を代替え しながら好みを優先している。また、行事食 の希望も事前にきくなどして食事を楽しめる ように支援している。職員と一緒に食後の片 付けや茶碗拭きを手伝って頂いている。	法人の栄養士によりバランスの良い献立で提供さ れる。利用者の希望で、食材を変えるなど個々の 好みにも対応し食事が楽しめるよう支援している。 利用者のできる能力を発揮し食材を切ったり、茶 碗を拭くなどの作業に参加してもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	献立は栄養士作成のメニューで提供してい る。一人ひとりの状態に合わせた食事形態 で対応しており食事量、水分量を記録し問 題あるときは、申し送っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	食後は義歯の状態観察をしながら、本人の力に 合わせた口腔ケアをしている。夕食後は義歯を 預かり、洗浄剤を使用し消毒している。異常時は 協力医院である歯科に往診頂いたり、家族に連 絡し、かかりつけ歯科医の受診をお願いしてい る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録表に記載、参考にしながら本人の排泄パターンを把握し、声がけをさりげなく行いながらトイレ誘導、介助をしている。	排泄記録を作成し、その情報をもとにトイレ誘導したり、尿取りパット、ポータブルトイレの活用など排泄の自立に向けたケアに取り組んでいる。自力ではトイレに座ることが困難な状態でも日中だけは、2人で介助することによりトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔を職員は把握しており、その原因や影響も理解している。早い段階で乳製品、多めの水分摂取を促し、適度な運動への働きかけをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	一人ひとりの希望に沿って曜日、時間変更、同性介助等個人に対応した支援をしている。湯船につかっている時に一緒に歌ったり、おしゃべりする等入浴を楽しめるように努めている。	入浴日は定めているが、希望により柔軟に変更し対応している。入浴時間は職員と利用者との大切なコミュニケーションの時間ととらえ、歌やおしゃべりを楽しみながらゆっくり入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて安眠や、休息できるような温度、採光、物音等に配慮している。また、季節に合わせて電気毛布や加湿器を使って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前、必ず薬情報提供書と照合、確認している。また、職員は薬の目的、副作用についても理解しており、個々に合わせた服薬支援を慎重に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事に合わせてゲーム、カラオケ、誕生日会の企画、実施また、普段のレクリエーション活動を促している。洗濯物たたみ、茶碗拭きの手伝い等一人ひとりの生活歴や力を活かし、気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望に沿い近所の公園を散歩したり、ミニドライブ等で外出支援している。家族様対応で病院受診、理容、食事される方もいられ、協力頂きながら支援している。	コロナ禍前は、日常的に近くの公園やおおぞら市場などへ出かけ、地域の住民と交流するほか、家族の協力による外出も実施している。また、年間で季節ごとの外出行事も計画し実施している。現在は、外出はドライブで車窓からの景色を楽しんでいただくようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者、家族様の了承を得て施設の立て替えにて対応している。外出時の食事や食べたい物、欲しい物の希望があれば使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望時には、いつでも電話することができる。また、職員が伝えたいことをきき、代わって連絡する支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を飾ったり、ホールや廊下にも行事写真や利用者様の作品を掲示している。不快感のある刺激は排除して、少しでも居心地よく過ごせるように工夫している。	共有スペースは、日当たりがよく明るい。季節を感じる装飾、作品が多く飾られている。テレビの音量は会話の邪魔にならないよう調整し、職員の作業音や話し声も適切で、利用者は穏やかに過ごされている。また、エアコン、加湿器を使い快適に過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には椅子、ホールにはテーブルとソファがあつてそこで休んで過ごされている方や居室で過ごしたり、食堂でテレビをみたりする方と思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、本人、家族様と相談して今までの思い入れのある物を持参頂いている。本人様が安心して過ごせるよう馴染みのある生活の継続を支援、工夫している。	入居時に、使い慣れた物や馴染みの物を持参するようお願いしている。2人の利用者が位牌を持ってきている。見えるところに写真を掲示したり、心身の状態に合わせて、ベッドや家具の位置を変えるなど、安全に安心して居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ自立した生活が送れるよう利用者様の目線に配慮して場所の表示、通路の斜面表示しており、安全な環境づくりに努めている。		